

ありが隊新聞

令和6年3月
第131号
編集：篠田大樹



文・篠田大樹
二月からの活動

二月には狩猟免許を取得しました。茶畑に出て荒らす動物が増えてきたり、家の周りにも出て畑を荒らしたり、獣害を防ぐためです。二十五日には長野市で天龍村・中井侍銘茶のイベントを行いました。その数日前に信濃毎日新聞に取り上げていただきました。その場でもオーナー制度の申し込みも多数いただき、三月中旬現在、十八名の方々に登録いただいています。一年で七、八人程度申し込みたいだければ上々くらいに思っていました。ただここまで増えたのはありがたい限りです。これから最初に登録していただいた方々が更新して下さるかどうかが内容や対応の評価も出てくると思います。

三月に入り、お茶の作業も一気に忙しくなりましたがなんと肥料撒きと春製枝を終わらせることが出来ました。九日には新たに苗を植える斜面を段々にする作業も行いました。茶畑では徐々に草も出てきたのでこれから草取りや表面のごみ取りなど行なっていきます。十久保南蜜の生産者組合も立ち上がり初期メンバーに登録していただきました。家の横で開拓した畑で栽培する予定です。



↑ 段を作る作業後、お手伝いいただいた皆様(ありがとうございました！)



↑ イベント@長野市の様子

協力隊退任と今後について

二〇一九年十一月に着任し四年五ヶ月目となる今月(三月)限りで任期満了にて協力隊を退任します。本来三年任期のところ任期中にコロナの影響がある隊員は延長できるといいう措置が生まれ、オーナー制度という新しい任務も与えられ長きに渡り務めさせていただきました。お世話になった皆様、陰ながら応援してくださった皆様に感謝申し上げます。数えてみると歴代協力隊の半数に当たる十二名の隊員と重なって活動していたようです。

天龍村の農業資源を活かした6次産業化のビジネスモデルになるというのを公約に掲げ、限られた任期の中で生業づくりをして退任後も生計が立てられるようにするにはどうしたらいいかを常に考えて活動してきました。村民の皆様にも寄り添い、皆様に楽しんでいただくようなことをしてきました。ではないので多くの皆様が望んだ活動の形ではなかったかもしれませんが、実際に生計が立てられるだけの事業を展開することが出来るようになったことは誇りです。今後は一個人事業主として活動を続けていきますので何卒よろしくお願いたします。

まつかわの活動 「二月中旬〜三月中旬」

松川友哉

ありが隊になり三年間が過ぎようとしています。今後ですが、六月までありが隊を続け、七月からキャンプ場を指定管理で運営できるように調整しています。決まり次第ご報告させていただきます。引き続きよろしくお願いたします。

●和知野川キャンプ場
・二月の状況…二月中旬以降は、少しづつ気温も上がってきたためお客様も増えてきました。売上は昨年とほぼ同様でした。ゴールデンウィークの予約も始まりました。お客様でこどもの日の連休は、予約満場となりました。その前に春休みで賑やかなキャンプ場になりそうなので今から楽しみです。やはり多くの方に来場いただけるのはとても嬉しいことです。

・今年度の状況…お陰様で三年目も終わりが近づいています。昨年度を上回る売上となりました。キャンプ場がなくなったという報道が最近増えています。ブームと共に、キャンプ場の売上も下降線とならないよう引き続き精進していきたいと思えます。

●梅花駅伝
今年も満月屋チームで二区を走らせていただきました。梅花駅伝の直前に練習するだけのわかランナーですが、昨年の自己タイムを更新することができました。応援ありがとうございました！声援が本当に力になります！

■和知野川キャンプ場 営業中
売店…毎週土曜日10時〜17時
ワチカフェ…三月三十日(土)13時〜17時
モーニング…毎週日曜日7時半〜10時
※四月の平日は、河川工事休業となります。

●松川携帯 090454913223



WACHINO.CAMP
Instagram
週3回以上は更新しています。



応援ありがとうございました



今年もお醤油仕込



平岡の昭和の街並みにときめき



文・前川未来

時が過ぎるのは早いもので、三月ももう終わり。協力隊としての三年目もそろそろ終わろうとしています。
この度私は、協力隊任期満了の今月いっぱいをもって協力隊を退任し、お世話になったこの村を少し離れて、新たにチャレンジをする決断をいたしました。

わたしはもともと人見知りや人と関わるのが苦手な、村に来るまでは機械相手の製造業をしていましたが、「どうしても面白い物ご用聞きの仕事をやってみよう」と思い、天龍村の協力隊に応募しました。それまでの自分自身が、苦手意識を持ってずっと避けてしまっていた分野を仕事とすることに、正直不安な気持ちを抱いていましたが、村の皆さんがとても温かく見守ってくださったおかげで、たくさんの方とお話や繋がりを持つことができました。そしてそのことがきっかけとなり、やまびこテリだけでなく他にも全体の勉強を始めた。他の隊員や集落支援員の方と一緒に新しく試みた活動があったりと、過去の自分では考えつかないような経験をさせていただきました。

三年目という節目を迎えるにあたり、これまでの経験や学んだことを振り返り考えたときに、これから先自分が進んでいきたい、もつと学びたいと思うものが見え、今回の進路を決めさせていただきました。とはいえず、協力隊として来て初めて知った天龍村、そして南信地域がとても好きです。ですから今後もこの南信の地域に貢献していきたいと思っています。

新たに挑戦をする気持ちを持てるようになったのも、この村の皆さんに育てていただき、この村で過ごした日々があったから。ここに来ていなかったら絶対に得ることができなかったものがたくさんあります。この三年間は自分の人生において、とても大切な時間であったと感じています。結局まだまだ未熟なままの私ですが、ここでの経験を大きな糧として、これから先、活躍できるように、そして成長していけるように、精一杯努力していきます。

三年間、本当にお世話になりました。きつとまた天龍村で出会うことができると思っているので、そのときはどうぞよろしくお願いたします。

ありがとうございました。

三月の活動内容

三月に入り、ようやく春の訪れを感じる季節となりました。自身の活動といたしましては、三月九日に天龍村の歴史書籍の制作が完了しました。去年の一月から原稿を書き進めて、一年と三ヶ月かけて無事に書籍として完成しました。興味がある方は、無料で配布しておりますので、連絡(090・8173・3041)して頂ければと思います。なお村内各所に置かせて頂く予定となっておりますので、是非一読よろしく願います。

三年間ありがとうございました

令和三年四月に天龍村の協力隊に就任し、三年間の任期を終え、令和六年三月三十一日をもって協力を退任することになりました。三年間、村の方々はじめ、役場の方々など様々な方々に陰に陽に大変お世話になりました。船舶の専門学校を卒業した後、観光船の船員として三年間会社に勤め、天龍村の協力隊に就任したので、二十三歳のとき天龍村に住み始めたことになりました。

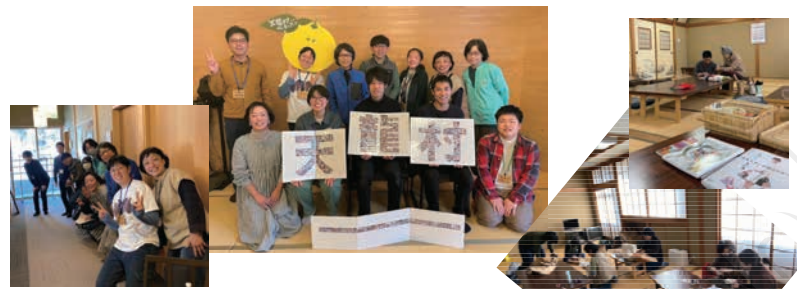
熊谷貞直

話が大きく変わって、今から約六十七年前、現在の天龍村の、主に竜西(左閑辺)を切り拓いたのは武士の熊谷貞直といわれています。そしてその時の年齢が推定で二十六歳です。二十六歳で天龍村に移住し、五十六歳で亡くなるまで、天龍村において三十年間、中世村落を形づくりに尽力していきます。

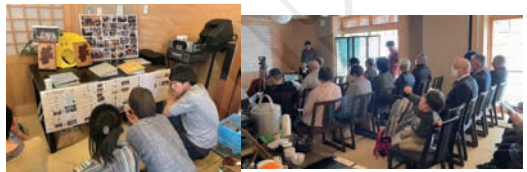
貞直が五十六歳で亡くなる時、辞世の句として「おもひきや千里の浦を廻り来て此山陰に朽ち果るとは」(様々なところを転々として最後にこの山間地で死んでいくものとは、思いもよらぬことである。)と詠んでいます。京都で生まれた貞直は、中央の政変に巻き込まれ、各地を転々としていきます。そして最後に落ち着いた左閑辺でその生涯を終えます。そのような経緯を鑑みると貞直の辞世の句は、深みをもって私の心に迫ってくる言葉になっています。私の生まれ故郷は神奈川県横須賀市で、どういった縁があったのか、今では天龍村

加藤まゆみ

◇「みんなでよもやまの会」手芸会!!
今回は各々、やりたい手芸を持ち込んでの会にさせて頂きました。皆さん年齢の壁も超えて楽しく参加して頂いてました。年度が替わっても引き続き開催させて頂きたいと思っておりますので、ぜひご参加ください。



◇活動報告会終わりました。
今回は例年と違いおきよめの湯にて発表と交流を兼ね備えた会にさせて頂き、今までの協力隊の歴史も年表にし、過去の新聞も閲覧できる形にしました。和やかな会になりました。一日でした。



おそうじ道 ④「スプリングクリーニングのススメ」

家の中もリフレッシュしたくなる春の到来です。昨年書かせて頂きましたが、欧米ではちょうど今頃の時期から大掃除、つまりスプリングクリーニングをするのが一般的なんだそうです。気温が上昇し、気候のよい季節なので作業がはかどる。この時期に大掃除をするメリットは多く、ぜひ取り入れてみたい習慣です。また年度の変更目でもあり、新たに取り出すもの、次のシーズンまで保管するもの、入れ替えが多く発生します。よい状態で保管するためには、もちろんお手入れやクリーニングが欠かせないので、このような掃除にチャレンジしてみたいかがでしょうか?

- * 暖房機や加湿器のお手入れ
- * 晴れた日に窓を洗う
- * 冬の寝具を干してお手入れ
- * カーテンの洗濯
- * 油汚れを中心にキッチン の再点検
- * エアコンの掃除
- * 靴の整理・玄関の掃除

引き続き何かお手伝いして欲しい事があればご連絡ください。
加藤 090-3321-0823

に住み着いています。天龍村に永住することを決めた身としては、やはり貞直の辞世の句が、力強くも物悲しい音調で心にしみわたってきます。

ありがとう

天龍村の地域おこし協力隊のことを「ありがとう」と呼びます。以前のありがとうが隊新聞を読み返してみると、その正式名称は「あつぱれ!天龍村の方について」も協力していただきありがとうございます。となつていることに気がつきました。

私は、天龍村の地域おこし協力隊として三年間活動させて頂きました。村の方々を協力するよりも、協力して頂くことの方が多かった様に思います。そうした意味でも、私にとつては「協力隊」よりかは「ありがとう」の方が、適切な言葉としてしつくりくるのかも知れません。他のありがとうが隊員や、ありがとうが隊OB、OGの方には、大変お世話になりました。恐らく先輩方の諸活動が積み重なって、自身自身の活動ができたのではないかと思います。改めて御礼を申し上げます。今後とも様々な地域活動でお世話になります。天龍村の地域おこし協力隊は

モチの天龍やんやんや

文 望月ひとみ

三月になり、ウグイスの美声が聴こえる季節になりました。「梅に鶯」ということわざがあります。天龍村の自然と人も、そんなふうに関係が、ともに親しめるよい関係でありたいものですね。

ていざなす栽培



ていざなすの苗木は接ぎ木苗で仕立てて、出荷します。組合員用苗木は通常よりも接ぎ木を高くします。接ぎ木というだけでも病気に強い苗にすることができ、収穫したいというだけでも長くの高接ぎ木という方法で苗を作っています。

接ぎ木苗の上半分を穂木といいますが、これが毎年種取りをして代々受け継がれているていざなすの苗(右写真)。いまはまだ葉が丸くて愛らしいですが、カットするのが切ない気もしますが、よりパワーアップした苗になるのよと励ましつつ接いでいます。



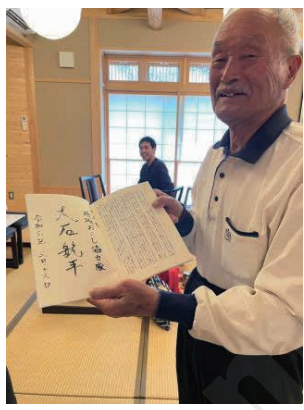
十久保南産

去る三月十五日、天龍村十久保南産生産者組合が設立されました。

終わりになりますが、天龍村には住み続けることになり、一村民としてこれからも天龍村の方々にはお世話になります。

これからも、地区の活動や消防団、村のお祭りなどの地域活動に積極的に参加していきたいと思っておりますので、よろしく願います。最後にありますが、ありがとうございます。隊として村の方々をはじめ、たくさんの方々にお世話になりました。ここに深く御礼を申し上げます。後にも、協力隊終了後も、地域の活動でしっかりと恩返しをさせて頂くと固い決意をもって、今月号のありがとうが隊新聞の結びと致します。ありがとうございます。

記 大石 航平



皆で盛り上げていきましょう。伝統野菜はその地域の風土や暮らしに合っているからこそ種が継がれてきたもので、残されるべき「食の文化財」であると研究者であった大井美知男先生の書籍にあります(『地域を照らす伝統作物』川辺書林 二〇一〇)。地域の文化を伝える伝統野菜が、地元地域でより多くの方に栽培され、おいしく食されること。この姿こそ、天龍村のような中山間地域における豊かな地域像であると考えています。



先日、東京農業大学の農村調査部の学生六名の方が来村され、十久保南産栽培のことや栽培に至った背景である村の歴史・ダム建設の歴史について学びを深められました。十久保南産の種まき・伊那谷ガレットの調理体験もでき、熱心に話を聞き取る様子や村の課題解決に協力したいという思いを受け、私自身も刺激を受けました。通年で生産・商品開発に関わることので、大変うれしく、ともに学べる事が楽しく思っています(将来村に住もうと思ってくれる方がいるといいな...)。